

## 晩秋

(とびきり素敵なお話があるの…)

小さな女の子は落ち葉の中に  
小犬を抱いて春を夢見る

(冬って嫌い)

それは多分北風のせいだったろう  
ひとりと一匹が震えていたのは

(私、大人になつたらね…)

小犬は黒い鼻をひくひくさせ  
つぶらな瞳を少女に向け

(きっと哀しくなってしまうと思うの)

近づく鈴の音は迎えの馬車  
小犬は聞き耳を立てる

(でも私、大人になるわ)

風が止まる <sup>ひかり</sup>と陽光は暖かく  
少女はうとうととしはじめ

(ねえ、とびきり素敵なお話でしょう？)

迎えの馬車はまどろむ少女と小犬を乗せ  
きっと暖炉の傍へ行くのです  
春を夢見ながら

(1985.11.5)